

# 文献センター通信

第13号  
2010年4月5日  
一部100円

主な内容	
カレンダー発売記念イベント	1
シンボ・大逆100年を語る	2
Aセンター収支決算報告書	3
宮下太吉の墓を訪ねる	4
文献センター自己紹介10	6
運営委員会議事録	7
カレンダーに寄せられた声	7

1月16日(土)、東京・新宿の

カフェ・ラヴァンデリアでアナキズム文献センター主催による「アナキズムカレンダー2010発売記念イベント」を開催。カフェが会場とあつてか、若い世代の参加も多く見られました。

\*

当日は、各月の図版をスライドで映しながらカレンダー部会のメンバーが各月を解説。大逆事件とはどのような事件であったのか、連座したひとびとや当時の運動についてやカレンダーに掲載できなかった情報なども紹介しました。また、カレンダー

## アナキズムカレンダー2010 発売記念イベント開催

の資料提供でご協力いただいた近藤千浪さん、白仁成昭さんからイベントとなりました。貴重な話も交えながらの

\*

イベントの後半には特別企画として、カレンダーでは4通ほどしか紹介できなかった「大逆帖」の全ページのスライドを公開。幸徳秋水が堺利彦を頼りにしている様子や母親への想いを吐露している姿が伝わってくる書簡などを紹介しました。また森近運平の書簡では、宅下げした書籍に爪跡が残っていた句を堺利彦が読み取って、書簡の横に書き残していたエピソードが白仁さんから披露されるなど、



上/スライドを映し、各月の説明をする  
右/アナキズム文献センターのカレンダー部会は今回のカレンダーの立役者



## 【レポート】

「シンポジウム 大逆事件100年を語る」  
〜この100年、これからの100年〜

（3月14日、於：エルおおさか、主催：「大逆事件を語る」  
集会実行委員会、協力：アナキズム文献センター）

1910年5月25日、信州明科  
で宮下太吉、新村忠雄が逮捕され  
たことにはじまる「大逆事件」か  
ら今年で100年。アナキズム文  
献センターでは「大逆事件100  
年」をテーマにカレンダーを制作、  
おかげさまで好評をいただきました  
が、それと同時に関西の仲間か  
らイベントの呼びかけがあり、セ  
ンターとしても協力を快諾。イベ  
ント当日は東京から3名が参加し  
ました。

当日は、アナキズム文献セン  
ター運営委員でもある徳永理彩さ

んをコーディネーターに、小松隆

二さん、泉恵機さん（浄土真宗大  
谷派僧侶）に加えて、朝鮮近代史  
が専門の歴史学者・水野直樹さん  
がパネラーとして参加、「大逆事  
件100年」であると同時に「韓  
国併合100年」でもあるという  
テーマが反映された人選でのシン  
ポジウムとなりました。

今回のシンポジウムのなかで特

に印象に残ったのは「朝鮮」とい  
う問題。水野さんは「大逆事件と  
韓国併合は直接には関係があると  
はいえない」と言いつつも、国家



これまで大逆事件との関連という  
視点から指摘されたことがなかつ  
たということです。私自身も今回  
初めて知る事件だっただけに、水  
野さんも話をされていました。日  
本で起きた日本の事件という捉  
え方だけではなく、もつと東ア  
ジア、ひいては世界全体から観  
るという視点の重要性を改めて  
気づかされました。

にとつて幸徳グループは（実際の  
彼らは朝鮮という面では弱点だつ  
たとはいえ）併合を批判する可能  
性のあるグループとしても見えて  
たのでは」と指摘され、大逆事件  
直後に朝鮮で起きた弾圧事件（安  
岳事件、105人事件、新民会事  
件）があったことを取り上げまし  
た。これらの類似事件については、

一方、今回で想いを強くした  
ことは、やはり「大逆」事件は  
（冤罪かどうかという議論はひ  
とまず置くとして）あくまでも  
「天皇（制）への叛逆行為」だつ  
たということ。そしてそれは「大  
逆罪」が廃止になった現在にまで、  
連綿と続いている問題であり、天  
皇制が存続する限りこれからも続  
く問題だということです。ともす  
れば、大逆罪が適用された他の事  
件（虎ノ門事件、桜田門事件、朴  
烈金子ふみ子事件）後者二つは朝

鮮関連！)は忘れられ、「大逆事件」幸徳事件」とされ、また「無実の罪」だった者の「名誉回復」ばかりがクローズアップされがちです(もちろん、それらの運動は重要な運動であり、否定するものではありません)。急用で途中退席された泉さんに代わって登場したルポライターの稲尾節さんが、1974年に天皇暗殺を計画



した東アジア反日武装戦線に言及して、「彼らは計画しつつも、なぜ貫徹できなかったのか」という問いをされたのが印象的でした。コーディネーターの徳永さんが最後にまとめていたように、「大逆事件100年」は、天皇制や植民地支配といった問題をきちんと清算できていない現実を、100年後に生きていく私たちに投げかけていると言えるのではないのでしょうか。

\*

今年から来年にかけて、多くの「大逆事件100年」に関連したイベントが国内外で開催されることと思います。そのなかでも今回のイベントは(多少消化不良感が残ったものの)重要な視点から問題提起がなされたとても有意義なイベントであったと感じました。

(報告・古屋)

## アナキズム文献センター収支決算報告書

2008年11月1日～2009年12月31日

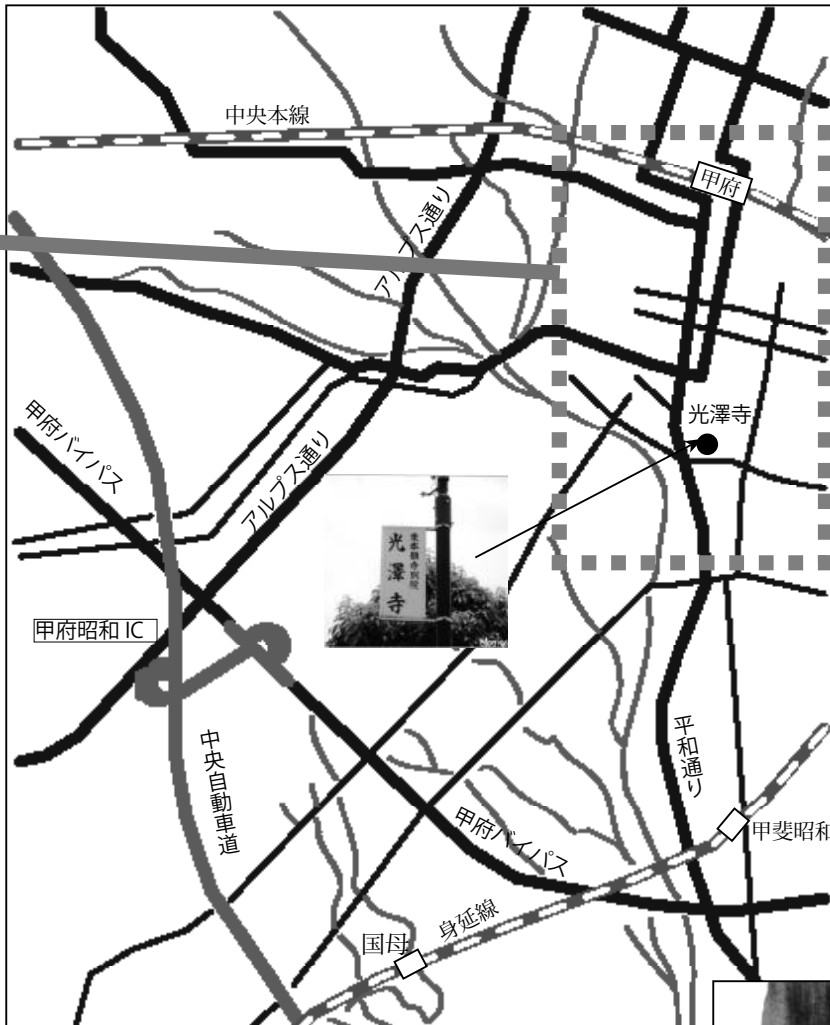
科目	金額	摘要
<b>収入の部</b>		
会費 / カンパ	557,640	前年繰越金含む
物販	126,070	
合計	683,710	
<b>支出の部</b>		
センター維持費	140,000	富士宮の光熱費(龍さんへの送金分)等
通信費	9,770	サーバなど
カレンダー制作関連	41,756	発送費等
その他出金	9,660	イベント関連等
次年度繰越金	482,524	
合計	683,710	

※その他「センター通信」の印刷費・郵送費等の未計上分あり

※2010年版カレンダーの印刷費は2010年扱い

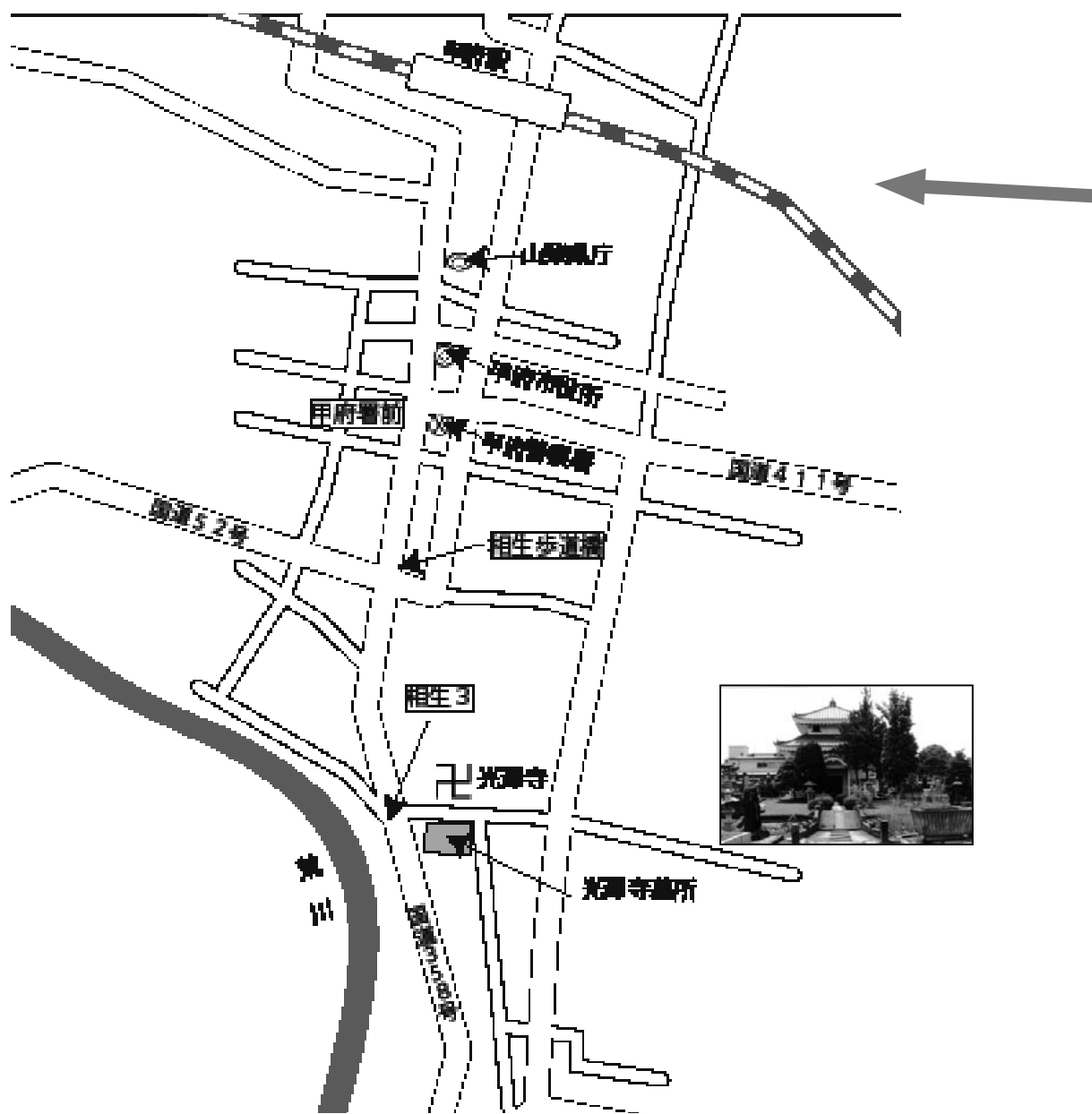
上記の通り報告いたします。

2009年12月31日  
会計係/古屋淳二



宮下太吉の墓を訪ねる  
山梨県甲府市





変則的な墓の配置なので他の墓が描  
 けません。全体的にこの辺りにある  
 ことと、石川啄木の歌碑を目印に探  
 して下さい。



## 文献センター 自己紹介 10

一九七三年・夏のキャンプ(続き)

夏期に、テント生活とセミナー等の多様なキャンプをやるという案は、文献センターの家主たる龍さんのもので、センター仲間の間では「自由学校」とよばれ、話題としては当時二年ほどにわたって検討されていた。

しかし、文献センターの整理をはじめとする諸作業に追われ、なかなか実現する機会をつくれずになっていたのである。同年もまた素通りかな、という状況だったが、キャンプ計画の盛り上がりに乗じて、セミナーがキャンプ計画につけ加えられた。セミナーそのものは、一言にしていえば、失敗であったと言える。実際に行なわれたものは、不十分なものを含めても三テーマであって、準備および体勢

の欠陥がはつきりと露呈した。セミナー案として、用意されたテーマを参考までに列記してみると、

- 1 プルードン(講師・長谷川進)
- 2 共同体の試み、土方コミュニティの経過と問題点(報告・羽熊直行)
- 3 外国のアナキスト諸グループ(報告・春木富三)
- 4 日本の闘争図
- 5 合同労組について(講師・福田武寿)
- 6 評議会運動——その破綻から学ぶもの(講師・江口幹)
- 7 非暴力直接行動トレーニング(講師・向井孝)
- 8 山鹿泰治の生き方に学ぶ
- 9 文献センターの活動経過と今後の課題について(報告・奥沢邦成)
- 10 アナキズム図書分類案の試み

11 富士地区労働運動史  
このように、計画されたセミナーの内容、テーマの設定はかなり豊富なものであった。全体の統一はあまり考えず、実現の可能性を基準にこれらのテーマと、その日程を決めたのである。

センターの図書整理に関しては、その目標をほぼ達成できたが、やはり準備不足がたたって、そのしわ寄せがセミナーの時期および準備におし寄せ、実現されぬもの、あるいは不十分なままに終えざるを得なくなった。

ただ、沼津の山鹿文庫に移動しての、「非暴力直接行動トレーニング」は、二四名の参加者により、講師・向井孝、トレーナー・高橋三喜子を中心に、にぎやかに取り組まれた。また向井氏からWRI(戦争抵抗者インター)について、日本での活動などの話が聞かれたのも有益であった。

キャンプ終了後、セミナーの「報告書」の話がでた。それは、セミナー自体としては成功しなかったが、そのままに一時の単なる反省にすませると何も残らない、それよりも、いくつかのレポートが手もとに残り、報告できるものがある限り、それらを「報告書」として残す方が、次回のセミナー、あるいは「自由学校」にとつて有効である、といった考えに基づくものであった。同時に、文献センターの活動のアピールという意味も含んでいる。

そして、この報告書は、その提案に基づいて編集が進められた。早い時期に出そうという予定が、やはり一ヶ月以上も遅れてしまったものの、B5判40頁の『リペーロー73年・夏のセミナー報告集』としてまとめられた。『リペーロー』は、『ぼおぼお1〜5号』(71年4月〜72年1月)、『文献センター通』(次頁に続く)

(前頁より)

信6〜9号』(72年1月〜73年9月)を引き継ぐ形で、京都の羽熊直行が73年10月1日から月刊で発

行し始めた『月刊リベロ』の題

名であり、その臨時増刊号として刊行された。(続く)

(奥沢邦成)

## 運営委員会議事録(抄)

11月は、運営委員会は諸般の事情により中止しました。

行う。スケジュール等は、文献センター通信等で早めに通知する。

第2回総会について…少なくとも

【12月運営委員会】12月19日(土)

■2010年度事業計画

運営委員会について…原則通り

毎月の第3土曜日開催で固定す

る。日程変更は極力行わない。9

月は富士宮交流会と同時に行う。

富士宮交流会について…9月18

日(土)〜20日(月、祝)に行う。

毎年、富士宮の「ふもとの家」で

行っている会員・運営委員会・龍

さんの交流会は、毎回ぎりぎり

日程が決まるため都合がつかず参

加ができない人もいた。2010

年度は日にちを確定して、準備を

も3年に1回、招集する事になっ

ている総会を次は、10年度に開催

する事を決定。会場は未定だが12

月4日(土)に予定する。関西で

の開催も視野に入れて検討する。

ニュースについて…10年度は4

回の発行を目指す。

データベースの更新について…

09年に新たに入力した書籍データ

をHPに追加・掲載する。

目録について…寄贈書の目録を

作成する。①平井文庫(HPに掲載済み)

②藤本文庫(通信にて掲載)

(次頁に続く)

## カレンダーに寄せられた声

(一部)

◆一昨日、カレンダー頂きました。

力作でびっくり！感激しまし

た。古い写真を大きく使う大胆さ、

しかも美しい。盛りだくさんの解

説文！ 壮挙です。お疲れ様でし

た◆(略)さて10年版カレンダー、

なかなか素晴らしい出来だと思いま

す。(略)次回よりは、もう少し

早めに(1ヶ月位前に)見本を送

っていたら、紹介や販売も

やりやすいのですが…◆2010

年カレンダー拝受！ すばらし

い！ 感動、力作ですね。大い

に宣伝します◆すばらしいカレン

ダーをつくって下さってありがと

う◆カレンダーありがとう。迫力

満点、最高の出来栄です◆大逆

事件100年のカレンダー(なか

なかいねえ)ありがとう。大事

に資料としてとつとききます。つ

うのはちょっともつたいないから

◆2010年のカレンダーは、素

晴らしい出来上がりで、私のよう

な初心者には読みごたえありまし

た。ありがとうございます◆Aカ

レンダーの送付、ありがとうございます

しました。なかなかの出来映えで

した。ご苦労様でした◆昨年暮れ

し、ありがとうございます。と

ても新鮮な気持ちで受け止めてい

ます。ありがとうございます◆

2010 Kalendaro、どうもありが

とうございました。毎年楽しみに

しております。いよいよ大逆事件

100年ですね。いろいろな写真

が沢山あって、とてもびっくりし

ながら感動しております。さすが

に文献センターと近藤文庫ですね

◆(略)「そんなに売れやしねー

よ」といつてしまいました。反

省。いいものは、売れる売れない

を度外視して、必ずうけいられ

るということですね

…等々

(前頁より)

載済み) ③その他について索引をつけた冊子にする。

決算について・09年度の決算報告はセンター通信に掲載。 ※3頁

■カレンダー

10年カレンダーが22日(火)に納品、23日(水、天皇誕生日!)に発送作業を行う事とし、封筒などの準備、発送用住所シール、同梱物の確認などを行いました。

■イベント

販促活動もかね文献センター主催でイベントを開催する。 ※1頁

1月運営委員会はさしたる記事はなし。

【2月運営委員会】 2月20日(土)

■カレンダー関連

カレンダー通販注文の確認と処理をした。

11年カレンダーの構想…大杉・野枝のテーマは虐殺90年の13

年がふさわしいのでは。11年は1945〜60年のアナキズム運動をテーマにしてはどうか。1人1月の形式で取上げる人物と書き手を募る。文献センター関係者への聞き取りプロジェクトと連動も。

■ニュース発行

内容は1月と3月のカレンダーイベントの報告を載せる。 ※今号

【3月運営委員会】 3月20日(土)

■ホームページ

文献センター・HPの維持・管理・機能の充実・役割分担等を考えたほうがよいとの提言が、メンバーリストで流された。この件につき話し合う予定も、会議参加人数が少ないこともあり、決定事項はなし。ただし、新刊紹介などを随時掲載するよう努力する。

■データベース

これも、決定事項はないが、項目・内容を自由に検索できるようにしたいとの要望が出た。今後、

検討をする。プログラム作成等に費用が発生する場合にはそれにも対応することも考える。

■目録

「平井文庫」「佐藤・藤本文庫」「アーキー総目次」の刊行準備が進んでおり、4月中には発行できるように、鋭意作業中。

■カレンダーの派生物について

大逆事件カレンダーのデータを加工した冊子を作った。価格を500円と決定。販売による利益は次回カレンダー制作の原資とする。 ※下段参照

拡大した写真が意外と鮮明であることを発見、今後、文献センター所蔵の集合写真などを冊子にしていくと、歴史の掘り起こしの助けになるかもしれない。

■ワイン部会(?)

文献センターがラベルを造りワインを販売しよう、という話で盛り上がった。CNTワインなどの例もあることだし…。

大好評のため品切れとなり、カレンダーを手に入れられなかった方のために、データをそのまま使用して作った冊子です。カレンダーをお持ちの方へも。

「大逆事件100年」  
 (年表付き) 頒価 500円  
 A 4判 20頁+年表 B 5判 4頁



アナキズム文献センター通信  
 第13号  
 発行/2010年4月5日  
 発行所/アナキズム文献センター  
 編集/運営委員会  
 連絡先/東京都新宿区新宿  
 1の30の12  
 郵便振替口座/  
 008500330010  
 口座名 A文献センター  
 Eメール/  
 info@cira-japan.net  
 定価/一部100円